

◎ 真心ある政治「こころのよりどころ通信」

大野市議会議員 林よりかず活動報告



大野市議会議員の林順和です。政治は常に国民、市民のものでなければなりません。私は日ごろから現場を大切に、話を聞いて「誇れるまち・大野」実現のため、市民・事業者と行政との橋渡しを心掛けています。

現在、大野市議会副議長として市政全般にわたりチェックを行うとともに、限られた資源(人、モノ、カネ)を重要課題に投資する明確な方向性と、スピード感を持った信頼ある行政運営を求めて、責任世代として行動しています。引き続きの指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

林 順和 Hayashi Yorikazu 昭和52年(1977)生まれ 46歳
中央大学卒、元市職員、現在大野市議会議員2期目

●令和5年9月議会において議論した主なテーマ。詳細は次ページで。

- ・(一財)越前おおの観光ビューロー設立と市の観光行政の連動は
- ・巨木を語ろうフォーラム、サステイナブルフォーラムの開催意義は
- ・文化会館のあり方と学びの里「めいりん」含めた可能性調査とは

●令和4年度に使われた税金が大野市発展に成果を上げているか、結果を分析して令和6年度予算への反映を求めました。

- ・職業訓練と生涯学習一本化
- ・歩いて健康づくりとポイント付与
- ・デジタル化とやまびこ箱(広聴)
- ・ペーパーレス化と業務改善
- ・職員の働き方と組織
- ・太陽光発電設備導入調査と庁舎管理
- ・各種パッケージの成果(子育て、定住、移住)
- ・観光イベントと消費額
- ・事業者へのサポート支援
- ・若者定住とビジネスプランコンテスト
- ・魅力発信と観光PR
- ・男女共同参画と女性リーダー育成
- ・屋根雪下ろし実証と設備設置支援
- ・脱炭素ビジョンと関連予算
- ・部活動地域移行と文化スポーツ振興

※利用低調だが経費増加した次の施設は方向性見極めを求めました。

- ・職業訓練センター
- ・DAINOUSポーツランド
- ・民俗資料館
- ・COCONOアートプレイス
- ・越前おおの水のがっこう

<https://hayashi-yorikazu.jp/>

「こころのよりどころ通信」バックナンバーや最新の市政に関する情報は、右記のQRコードを読み取ると、簡単にアクセスすることができます。



現場の声を聞き、議会で議論して市政に反映へ

【7月27日、第一地区区長会主催「議員と語る会」】

第一地区区長会主催の「議員と語る会」が7月27日、秋葉集会所で開かれました。区民約30名と第一地区内議員5名が参加して、地域の課題をテーマに議論を深めました。

【8月21日、大野地区区長会と市議会大野会懇談】

大野地区区長会と大野市議会大野会9名の懇談会が8月21日、学びの里「めいりん」で開かれました。人口減少対策や地域づくりの方向性など、市政全般にわたるご意見を伺いました。



区長会の中で出された意見等(一部)

◆行政区の高齢化が著しく、なり手不足や活動停滞による地域コミュニティが崩壊の危機。地元で担ってきた公園管理も難しくなっているが、市役所に危機感がない。具体的な改善策を求める。

⇒人口減少対策、地域づくりは最重要課題。我々議員も危機感を持って、対応を求めている。

◆側溝や道路の管理状況、災害時の避難場所(特に学校)の設定など、市民の安全安心につながる取り組みが足りない。実態に合わせて見直しが必要ではないか。

⇒数年前に水路の点検を求めており結果を確認する。避難所の運営や経路は実態に合わせた見直しが必要であり、議論していく。

編集後記

このロゴマークをご存じでしょうか。福井県が本年10月に発表した「ふくい最高!プロジェクト」で「ふくい最高!」と自ら語り、応援する風土を県内に拡大する目的で作られたものです。

地域への自信と誇りを醸成するものであり、私自身も我がふるさと「大野市」、そして福井県が良くなるため、日々活動しています。ぜひ、皆さんも自ら発信していきましょう。



ロゴマークの申請や手続きは福井県のホームページから。「ふくい最高」で検索してください。

発行元 林よりかず後援会事務所 【電話・FAX】0779-65-0276 大野市春日二丁目5-13



令和5年9月議会報告「大野市の方向性」明確に

「観光で稼ぐ」財団への支援…市の覚悟とスピード感を

9月に設立された(一財)越前おおの観光ビューローに対する基盤強化と市職員派遣にかかる補助金6,600千円が9月補正予算に計上されました。市は出捐(出資)していませんが評議員について市長が、部長が理事に着任しています。

市は第三セクターである(株)平成大野屋、(一社)大野市観光協会と統合した上で、まちなか観光や六呂師高原・九頭竜のアウトドア観光に力を入れる「観光で稼ぐ」をけん引する組織と位置付けています。

林の視点

派遣した1名の職員だけに負担を強いることは避けなければならない、統合する法人の社員を含めた体制整備が求められます。

同時に、市内事業者の売上増加につながる仕掛けを打っていかねば「稼ぐ力」とはならず、市の観光施策やイベントの整理、財団への関わり方など、市の覚悟とスピード感を持った対応を求めました。

誰のための大会開催か…機運高めて意義あるものへ

令和6年度に「第35回巨木を語ろう全国フォーラム」を本市で開催するため、青森県で開催される本年度の全国フォーラムへの視察経費416千円が9月補正予算に計上されました。また、来年3月には市制施行70周年記念事業のキックオフとして「市民総ぐるみで100年先も誇れる大野市を作り上げる機運を高める」ため、サステナブルフォーラムを開催すると報告がありました。

林の視点

本市は広大な森林を有していることから、森林の適切な保全は、良好な景観の形成や水源の涵養機能の維持、また脱炭素を推進する上で大変重要です。森林の役割や保全の必要性、林業関係者の機運醸成、人材育成など意義のある全国フォーラムとなるよう検討を求めました。

文化会館のあり方は…「めいりん」はリスクが多すぎる

8月に2回開催した文化会館あり方検討委員会において、席数はいずれも400席程度とした上で、現在地での建て替えや隣接する駅東公園に新築する案、結とびあや図書館に併設する案をもとに調査に入ると説明がありました。併設案のいずれかが法不適合の場合、学びの里「めいりん」の講堂を大ホールに改修する予備の案があるとの説明がありました。

林の視点

6月補正予算で議決した「調査委託料」は無駄にならないよう求めており、予備とはいえ学びの里「めいりん」が調査対象となっていることは、①学校併設であり平日日中の利用ができないこと②多額の経費をかけて空調を改修する予定がある中、さらなる経費負担となること…などから、リスクが多すぎると再考を求めました。



星空の全国大会(10月)。観光産業にどう結びつけるのか仕掛けが必要です

無駄を排除し、効果上げて「誇れるまち」へ

～決算審査で見た課題、公約で掲げた力を注ぐ4本柱に沿って議論～

○歩いて健康づくりとポイント付与
⇒市民1,630人を対象に実施したウォーキングプログラム、委託料37,206千円に見合う成果は。結果分析と公表を。

○男女共同参画と女性リーダー育成
⇒総務課と産業政策課で結果共有して政策目的の統一を。女性起業家と市長との懇談会で出された提案実現を。

○職員の働き方と組織改革
⇒重複や効果の薄い事業の整理を。部署間の連携不足、情報伝達の遅れなど、組織改革が職員の働き方にどう影響しているのか研究を。

人の育成

時代の変化への対応

○デジタル化とやまびこ箱(広聴)
⇒用紙記入の意見募集(10件)が広聴制度として機能しているか、デジタル利用も含めて検証を。

○ペーパーレス化と業務改善
⇒タブレット端末導入やオンライン手続きによる業務改善効果の分析を。

○屋根雪下ろし実証と設備設置支援
⇒高齢者宅の雪下ろしの負担軽減につながる屋根設備の設置支援の実施を。

○部活動地域移行と文化スポーツ振興
⇒主役は常に生徒であり、学校再編を控える中、保護者負担の軽減と関係団体との丁寧な調整を。

※金額は令和4年度決算額

○職業訓練と生涯学習一本化
⇒目的が異なる事業を統合して受講料収入が減少(1,242千円→701千円)している。企業が求める講座・研修は職業訓練センターを活用して実施を。

○事業者へのサポート支援
⇒大野商工会議所補助12,428千円とサポートチームへの謝金348千円、事業者のために何が必要か整理を。

○観光イベントと消費額
⇒観光ビューローと連携して取り組む事業の整理統合を。消費額が高まるイベントへの支援重点化を。

産業振興

財政健全化

○利用低調だが経費増加した施設
⇒施設のあり方(方向性)の検討を。

- ・職業訓練センター 15,313千円
- ・DAINOUSポーツランド 4,803千円
- ・民俗資料館 4,484千円
- ・COCONOアートプレイス 10,975千円
- ・越前おおの水のがっこう 3,103千円

○基金(貯金)の増加と財政出動
⇒平成30年度末(63億2411万円)と比較して12億3395万円(令和4年度末)基金が増加したが、道路の補修や経済対策などの財政出動は市内の経済循環につながる。市内の実態に即した支出を。

あれ、どうなった?



○こどもの遊び場整備と結ステーションの管理

現在の結ステーションは主に大型バスを含めた観光駐車場として無料で利用できます。(株)平成大野屋が指定管理者となっていますが、隣接するまちなか交流センターは市直営で管理しています。

まちなか交流センターは令和6年度のできるだけ早い時期に「屋内型こどもの遊び場」として改修、供用開始する方針が出されましたが、駐車場不足への対応などを明記する駐車場計画はまだ示されておらず、改修後の施設を運営する指定管理予定者(株)ジャクエツとの調整も済んでいません。

小さな子どもを連れた保護者や祖父母が多く利用する「こどもの遊び場」近くの駐車場が満車であれば、その利用をためらうことも予想されるため、関係者による丁寧な議論とともに、安全対策と観光利用の調整を、結ステーションを設置する市の責任において行うよう求めています。

【施設の概要】

- 普通車 103台
- 大型バス 8台
- ※多目的広場として利用することも可能、おおの城まつりや冬物語などで活用中